

第2回 秋葉区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成27年1月28日（水）午後2時から午後3時10分まで
会場	秋葉区役所 6階 601・602 会議室
出席者	<p>秋葉区自治協議会委員 出席13名 秋葉区PTA連合会役員 出席2名 教育委員 沢野教育委員、吉村教育委員、伊藤教育委員、眞谷教育委員、阿部教育長 事務局 教育総務課長・補佐・企画室長・総務係長、生涯学習課長・青少年地域と学校連携室長、学校支援課長補佐2名、教職員課長補佐、新津地区公民館長、秋葉区教育支援センター所長</p>
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育委員代表挨拶 伊藤教育委員 3 出席者紹介（教育委員、事務局） 4 テーマについて 「地域と学校の連携について」 事務局説明 生涯学習課長 ①新潟市地域と学校パートナーシップ事業の取組 5 事前質問回答 6 意見交換 <p>【テーマに関するもの】</p> <p>自治協委員 学・社・民の融合というが、公民館や図書館など社会教育施設は民・学にどのようにかかわっているのか。</p> <p>教育委員会事務局 例をあげると、図書館は、学校の中での読み聞かせボランティアのスキルを学ぶ講座の開催、公民館は、学校で朝ごはんづくり教室を開いたり、妊婦さんに命の大切さについて話をしてもらったりしている。</p> <p>自治協委員 地域での読み聞かせボランティアの育成についても、図書館での読み聞かせボランティアの育成同様の対応を望む。</p> <p>教育委員会事務局 図書館の方に伝える。</p>

自治協委員

パートナーシップ事業が成熟していることは認識している。年間を通じて様々な授業を行っており、先生、コーディネーターもいろいろと提案している。学校間での情報共有が課題と考える。また、子どもたちにふるさとのよさを伝えるよい機会になればと思うが、逆に子どもたちからこのような授業にしてもらいたいとか、意見を聴く場はあるのか。

教育委員会事務局

この事業の取組みでは、学校づくり、人づくり、まちづくりまでを考えている。たとえば、中学生にこのまちがどうなってほしいかを聞く総合学習や、職業体験者から話を聞いたり、この地域がどうなってほしいかなどの意見交換を行う授業も行っている。この結果なども地域に発信していきたい。

自治協委員

市外から転入して来た先生の中にパートナーシップの事業内容に希薄な人もいるが、先生対象の研修や市小研の中で、パートナーシップ事業の話などはしているのか。

教育委員会事務局

先生の研修については、この事業開始時期に担当先生やコーディネーターを対象に行っていた。また、初任者、12年目研修、新任教頭にも学・社・民の融合について勉強する機会をもっている。

転入の先生には研修の機会がなかったと思うので、校内で話ができるよう、事業にかかわってもらえるよう指導していきたい。

自治協委員

この事業について、新潟市は先進的と聞いており、全国的にも注目されているということだが、市民にどれだけ伝わっているのか。意識調査の結果に出たパートナーシップ事業の認知度は7.7%、もう少し外に発信すべきと思うがどうか。

また、先日出席した学校の推進会議でも、PTAがこの事業をよくわかっていない、PTAとコーディネーターとの連携がうまくとれていないという実態が見えたが。

教育委員会事務局

コーディネーターが全校配置された状況の中での7.7%にはがっかりした。この結果内容をよく検証しなければいけないと思っている。地域から力を借りて子どもたちを育てていかなければならないことは

積極的に発信していかなければならない。

ウエルカム参観日では、地域内外の皆さんからも授業を見に学校に来てもらっている。広報活動が大事なので研修も行っている。コーディネーターの生の声を学校から発信、事業をアピールしていきたい。

秋葉区PTA連合会役員

現場のPTAの意識として、役職に就かなければなかなか触れる機会はなかったと思う。ぜひとも情報の発信はお願いしたい。

学・社・民の連携の中で、コーディネーターひとりに業務を背負わせていないか心配だ。また、もし学・社・民の三者が集まる機会があるとすれば、誰に旗振り役になってもらったらよいか。

教育委員会事務局

コーディネーターがひとりで仕事を被るのではなく、それぞれの担当を置いている。コーディネーターが連携の窓口とすれば、学校では地域連携推進担当を決めて、また公民館では融合支援窓口となってくださいとお願いしている。推進会議は各学校で開いてもらっており、学・社・民それぞれの代表から出席してもらっている。

教育委員会事務局

今年度の取組みだが、学・社・民が一堂に会する場として、中学校区教育ミーティングをモデル実施している。内容は、担当教育委員と中学校区のコミ協、保護者、学校教職員、公民館も入り意見交換を行っている。地域全体で子どもを育てていくのだという意識の醸成が図られればと考えている。秋葉区では金津中学校区で開催した。

自治協委員

生涯学習の施策で、子どもふれあいスクール事業について聞きたい。

教育委員会事務局

学校の空き教室などを利用して、放課後や土曜日の午前中に子どもたちに居場所を提供している。現在、113小学校のうち68校で行っている。週1回から3回くらい、時間は午後4時半くらいまで、土曜日は午前中。地域やPTAの方々からかかわってもらっており、秋葉区では満日小学校で行っている。

自治協委員

ここで確認だが、先ほどの話の中では推進会議が各学校で開かれているということだが、ここに呼ばれるメンバーは各学校に任せられているのか。PTA会長でも呼ばれていない学校があるようだが、統一

性はあるのか。

教育委員会事務局

推進会議の構成は、地域団体、学校、社会教育施設の各代表、ほかに座長が必要と認める者という規定があり、その中で人選し出席をお願いしている。

自治協委員

であれば、PTA会長は呼んだ方がよいのではないか。規定はそうだが、ぜひ学校ごとに保護者の代表は呼んだ方がよいと思うが。

教育委員会事務局

大勢の方々からかかわっていただく事業と考えている。人選は学校に任せているが指導していきたい。

【テーマ以外に関するもの】

自治協委員

資料の中の学力調査の結果について聞きたい。6ページ、7ページにある学力学習状況調査というのは、基本的には子どもたちの生活習慣と成績とは関係があるというふうにとったが。その場合、その実態から教育関係者として、地域に対して何か要求することはあるのか。

教育委員会事務局

学力と生活習慣は関係するのではないかというのが国立教育政策研究所の見解である。5ページに正答率があるが、マスコミ中心にポイントだけが先走りで報道されている感もある。そうではなくて、子どもたちの学びの結果、授業の改善などの証としての正答率であり、それには授業だけでなく生活習慣も含めトータルで成長していることが確かな学力の定着につながっているということをお示ししているもの。また、質問のこれをもって地域に何かお願いしたいということは今のところない。ご理解いただきたい。

自治協委員

最近、小規模校とか少人数学級の解消とかいう話も聞かれる。学力の向上については、このデータを見ると、秋葉区、新潟市は全国的に見ても優れており、いろいろな要因があると思うが、そのひとつとして少人数学級でのきめ細かな学習指導の成果と思う。秋田県は少人数学級でトップレベルを維持しているわけだが、新潟市は、少人数学級の受けとめ方、評価についてはどう考えているか。

教育委員会事務局

少人数学級については、きめ細かな指導が可能との視点から重要性を認識している。

現在、給与権と定数権が県にあり、基本的には県から学級数に応じた教職員数が配当されている。平成13年度から小学校1、2年生が32人以下の学級編成となり、更に近年少人数学級化が進み、平成27年度からは小学校3年生から中学校3年生まで、すべてで35人以下の学級編制となる見通しである。少人数学級のよさをさらに活かしていく形で指導していければと考えている。

自治協委員

今回の内容がパートナーシップ事業ということだが、私はコミ協の立場からの参加。地元新津第二小学校ではサケの稚魚の新津川への放流を通しての授業がこれにあたると思う。成果を見ることは難しいが、その過程において、地域も学校も一生懸命に取り組んでいることであり、ここに書いてある課題に尽きると思う。お願いということになるが、テーマを絞ったものでなく、もう少しフリーにした会議にしてみられればと思うが。

教育委員会事務局

今のご意見も踏まえて、来年度からの本格実施に移行したい。

自治協委員

総合学習とパートナーシップ事業の違いがわからない。総合学習は知っているが、地域とのかかわり方で違いがあるのか。

教育委員会事務局

総合学習は今でも学校でやっている。いろいろな教科につながるため横断的にやっている。

パートナーシップ事業は、地域の方々から学校に入ってもらい、子どもたちの学習を支えてもらったり、専門的知識・技能を教えることで成果を出している。

7 部会長あいさつ

今日はいろいろと意見交換ができ有意義な時間をもつことができた。おそらく地域の皆さんも同じことを考えていると思う。ここで出た意見はぜひ情報発信してもらいたいし、こちらも協力したい。

8 閉会